

会 議 録

会議の名称	平成24年度(2012年度)第5回学校教育審議会		
開催日時	平成24年(2012年)10月23日(火) 18時30分～20時00分		
開催場所	豊中市教育センター 研修室1, 2	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	教育委員会 教育総務室 企画チーム	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	安家委員、阿部委員、大高委員、小川委員、河崎委員、黒田委員 鶴澤委員、永井委員、西川委員、伴野委員、平尾委員、福富委員 福盛委員、堀田委員、山本委員、行岡委員、義本委員、渡邊委員	
	事務局 その他	山元教育長、大源教育次長、渡辺教育推進部長、羽間生涯学習推進部長、 西尾理事、松田市民協働部長、足立こども未来部長、 小森教育総務室長、泉学校給食室長、亀谷人権教育室長、中井教職員室長、 鈴木教育センター長、山羽地域教育振興室長、 五嶋市民協働部次長兼中部地域連携センター長、 小嶋学校施設管理チーム長、森脇学務チーム長、島野企画チーム長、 林教職員人事チーム長、鈴木小中学校チーム長、 新海児童生徒支援チーム長、石井教育相談チーム長、 野村支援教育チーム長、正意地域教育振興チーム長、 服部文化財保護チーム長、杉山青少年育成課長、 第九中学校・高橋校長、新田小学校・久岡校長、北丘小学校・中村校長、 東丘小学校・十河校長、西丘小学校・柴田校長、東泉丘小学校・酒井校長、 長坂副主幹、村上主査、大野主事	
議題	○「学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた具体的方策の方向性について」(諮問)の検討 (1) 南部地区の課題解消に向けた審議の振り返り (2) 千里地区の課題解消に向けた具体的方策の検討について		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

会長 ただ今から、本年度第5回豊中市学校教育審議会を開会したいと思います。

本日は千里地区の課題について審議を行います。会場はいつもの教育センターとなりました。

また、本日は、オブザーバーとして、千里地区の小・中学校から6人の校長先生にお越しいただいております。事務局からご紹介いただけますでしょうか。

審議会事務局 順番にご紹介させていただきます。

(校長先生の紹介)

会長 ありがとうございます。審議中にご質問させていただいたり、ご意見を伺うこともあろうかと存じますが、その際はよろしくお願いたします。全員にお話ししていただけるかわかりませんが、可能な限りご意見を頂戴したいと思っております。

それでは、本日の審議会の成立要件につきまして事務局からご報告をお願いいたします。

審議会事務局 審議会の成立要件についてご報告いたします。

豊中市学校教育審議会規則第7条の規定では、審議会は委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができません。現在、委員数19名に対しまして15名のご出席をいただいておりますので、過半数を満たし、審議会は成立しておりますことをご報告申し上げます。

会長 ありがとうございます。続きまして、資料の確認をお願いいたします。

審議会事務局 先日郵送で送らせていただいているかと思いますが、本日の資料につきまして確認させていただきます。

次第が1枚、資料1「南部地区の課題解消に向けた審議の振り返り」が1部、資料2「千里地区の再編を試みるにあたっての前提」が1部、資料3「千里地区再編の試み」が1部、今年3月の審議会でお渡ししております「市立小・中学校の適正規模と通学区のあり方について（答申）の具体化に向けた検討経過及び結果について－中間まとめ－」、中間まとめの概要版、そして前回審議会でお渡ししております「市立小・中学校に関する基礎データ（平成24年8月改訂版）」となっております。

以上です。

会長 ありがとうございます。皆様、資料等そろっておりますでしょうか。

審議会事務局 本日の審議とは関係ありませんが、「教育に関する事務の点検及び評価報告書」と「教育要覧」の2冊を参考資料ということで今回お席にお配りしております。これらもお持ち帰りいただきたいと思っております。

会長 委員の皆様ご承知かと思いますが、教育の事務に関する点検及び評価報告というのが義務付けられておまして、1年間、教育委員会の施策がどのように行われたかというものの評価表でございます。お目通しいただければありがたいと思っております。

続きまして、傍聴者についてお願いします。

審議会事務局 ただいまのところ、傍聴者の方はおられません。

会長 それでは、本日の議事に移りたいと思っております。

本日は、前々回、前回と審議いたしました南部地区の課題を一旦置いて、千里地区の課題を中心に審議していきたいと思うんですが、まず前回まで行いました南部地区の課題に係る審議内容を振り返って、共通認識を持つておきたいと思っておりますので、簡単に事務局から説明をお願いいたします。

審議会事務局 お手元の資料1「南部地区の課題解消に向けた審議の振り返り」をご覧ください。

それでは、資料説明に入らせていただきます。

前々回と前回の2回にわたりまして、「南部地区再編の試み」ということで、試み1は、3つの中学校を「庄内学園中学校」というふうに1つにする案、試み2は、中学校の通学区域を見直し、分割校を解消した上で小中一貫校を整備するという案、この場合、野田小学校と第十中学校の1小1中の校区が生じることとなります。試み3は、小学校、中学校の統廃合を行いまして、公共施設併設型の学校や小中一貫校を整備するという案、そして、試み4としまして、学校選択制の導入、これら4案をもとにご審議いただきました。

南部地区の課題が複雑に絡み合っている「負の連鎖」を断ち切るためには、子どもたちの教育から変えていかなければいけない、こういった共通認識は持っていたけたとは思いますが。委員の皆様、そして南部地区の校長先生からいただきました意見を項目ごとにまとめております。

まず、小中一貫教育ですが、「小・中の9年間トータルで子どもたちを見てくれるのはメリットである」、「従前の6・3制ではなく、例えば4・3・2制の導入も検討すべき」、「キャリア教育の視点から、働く大人を見せるなどして、子どもたちをどのように社会的、職業的に自立させるか考えるべき」といった意見をいただきました。

次に、進路保障、学力向上についてですが、「学校において積極的に補習教育を行うべきだ」という意見と、「放課後に立ち寄って勉強など見てもらえる児童館的な施設があればよい」といった意見をいただいたと思います。

それから、2ページ目、学校と地域のかかわりですが、「地域にもっと学校を開いて、地域の力を借りるべき」、「しんどい学校には教員の加配など人的支援を行うべき」という意見、それから「学校の先生を全面的にバックアップして、地元の子どもたちは地元で育てる。その子たちが親になり、同じように地元の子どもたちを育てる、こういった循環により地域がより良くなっていく。」といった意見をいただきました。

また、魅力等ですが、「『おらが学校』という思いを持つ人が地域には多いので、学校再編を行う場合は、魅力ある提案で地域の納得を得なければ難しいだろう」、それから「新しい学校施設をつくるには、予算面から統廃合も視野において、多少の血を出すこともやむを得ないのではないか」といった意見もいただきました。

そして、試み4として新たに提案した学校選択制ですけれども、「学校を中心に地域団体が協力し合って地域を活性化する方法で考えるべき」、「地域と学校の関係が崩れてしまうなど問題点が指摘されており、個人的には難しい」といった意見をいただいたかと思えます。

そして最後に、3ページ目になりますけれども、これまで議論できていない課題ということで、庄内地域の3中6小に絞ってこれまでご議論いただいておりますが、小曾根小学校、豊南小学校、高川小学校の小規模課題についてはまだ議論ができていません。説明は以上です。よろしくお願ひします。

会長 ありがとうございます。前回ご欠席された委員もいらっしゃると思いますが、出席された委員の皆様は、ご記憶をたどっていただいて、事務局の方で、出た意見を書いたみたいなんですけれども、結局私たちは過去2回、南部地区のことを審議して、何を

どうしようという結論に至ったのか、という確論が要ると思います。

委員の皆様、何か意見ございますか。1案、2案、3案というのはあったと思うんですね。それにつきまして、どうしたらいいんだという。私の感想をまず申しますと、統廃合を進めるという意見はあまりなかったと思いますね。それから庄内中学校をつくるという意見は、実はあまり支持もなかった。それは庄内中学校のイメージが曖昧（あいまい）だったんだろうと思う。結局、中学校区の再編というか、例えば千成小学校は分割校ですが、それを調整して、第六中学校、第七中学校、第十中学校はそのまま残して、小学校を丸々中学校区に編成替えて、第十中学校と野田小学校という1中1小の形が残るのもやむを得ないという意見が一番多かったように思うんですが、いかがでしょうか。そんなことを言っていないというご意見があれば頂戴したいんです。ただ、それが正しいというんじゃないんですが、そういう意見の流れだったと記憶しているんですが、何か修正を加えてください。

A委員 資料1の2ページ、乳幼児期の教育に係る意見等のところを、私の思いとしては、「乳幼児に対して」というのはもちろんなんですけども、「乳幼児のころから」社会性、コミュニケーション力をつけていくことが大事だということで発言させていただいたと思うんです。それをつけ加えさせていただくと、小中一貫にかかわって、例えば幼稚園1年を義務制にするとか、小学校の1年生に限っては、学習に関する規範意識をつけるとか、社会性、マナーを学ぶという内容で1年を過ごすというふうなこともつけ加えてもらいたいなと思って今発言しているんですけども。

といいますのは、先ほど会長さんがおっしゃったような流れにはなっていたとは思いますが、ここにあるような、1ページ目の一番下、「死に物狂いで負の連鎖を断ち切る」とか、「進路保障をしていかなければならない」という議論の中で、「神崎川を挟んで大阪市と隣接していて、もっと庄内地域にお金の入ってくるようなことも考えるべきじゃないか」という意見もあって、ちょっとあちこち飛んで申しわけないんですけども、総合的に、例えば統廃合が可能であるならば施設一体型の新しい建物をつくるとか、あるいはそういったことは難しいのであれば、教育内容を、特区という形でもっと特色ある教育をしていく、キャリア教育を充実させるとか、どういうふうに将来的に変わっていくかもわからないけれども、このチャンスを生かして、庄内地域の負の連鎖を断ち切るためには何か新しい取り組みをこの際するべきじゃないかということが一番、トーンとしてはあったんじゃないかなと思うんです。

会長 今日付け加えられたところもあったと思うんですけども、今最後におっしゃいました、「新しい発想で南部地区の教育課題を捉えるべきだ、従前のような形態ではだめだ」、例えば乳幼児、0歳から15歳まで、一貫した教育や子育てのステップが必要ではないか。なぜならば、養育不全家庭という言葉もあるように、子どもを育て切れない家庭が多く、子どもの課題の8割は家庭の問題であると。ただ0歳からということは、既存の小学校に保育所的なものを付設するという具体になるんでしょうか。答申ではある程度書かないと。それをどこにつくるかというのは事務局の判断になってくるんですけど、従来であれば保育所と小学校は別のものだという発想だったけれども、0歳から15歳までという子育てを念頭に入れた具体策を講じるべきというまとめでよろしいですか。少し具体にしていかないと、なかなか答申には書けないと思うんですよ。

A委員 乳幼児のころからお金をかけて、将来しっかりと進路を獲得できるような子ども

に育てるためには、私は、今会長さんがおっしゃったように、0歳から15歳という視点で考えていくべきだと思います。

会長 それから、小中一貫教育に関しましては、例えば第十中学校、野田小学校というところで、第十中学校に施設一体型の新しい学校を建てるということは議論しました。可能性があれば建てる。というのは、1小1中になって一番の問題点は、子どもの数が減ってきたときどうするんだという話ですよ。具体的に言えば、他の市では施設一体型の学校を建てて、今の野田小学校の跡地を宅地開発の業者に委ねてマンションを建てる。そして、子どもたちの数を確保しながら、第十中学校を施設一体型の9年制の学校にする。そして、F委員がおっしゃったみたいに、よそからいくらでも受け入れますよ、という選択制にする。当該校区の者が外へ行くという選択はないけど、例えば他の校区にいる子がその学校に来たいといっても構わないという選択制にしたらどうだという話はありませんでしたが、施設一体型を建てればどうだ、という提案を、私たちは議論しましたかね。校区再編をするのであれば、施設一体型学校の議論をしないと、1小1中の学校区ができてしまうだけになると思いますけども、その辺いかがでしょうか。皆さんご自身が答申を書くと思って考えてください。どうでしょうか。

「その可能性も視野に入れて」という書き方はできますよね。施設一体型の学校を第十中学校に建てるということを見視野に置いて、「新しいタイプの、新しい観点から南部地区の教育を再検討すべきだろう。」みたいなことは書けるとは思いますけど、いかがですか。

今日はこの後、千里地区の審議に移りますし、その次の審議事項もまだ残っていて、開催できる回数は、あともう2、3回しかないのので、イメージから具体をつなぐ発言がこれから要るでしょう。制約しませんよ、イメージの発言は大事です。ビジョンが大事です。具体論ばかり言っていたら肝心のビジョンがおろそかになりますから、大事なんですけども。「小中一貫校の建設も視野に入れて」ということを書きましょうか。

施設一体型です。近隣では池田市が建設予定です。あと、守口市も建設予定ですが、大阪ではまだ、そういう意味では積極的な施設一体型の小中一貫校はまだないと思いますが、豊中市でもそれを視野に入れるということを書いてみる、できるかできないかは別ですよ。

あとは、0歳から、幼児期からの教育機関を小学校に付設することも考えていただく。これは庄内地域の教育課題を反映している。

そして、前回教育長もおっしゃいましたように、それらのものがいわゆる学力の向上につながっていかなければ、高校の学区も解体されて、いろんな子どもたちが高校を選ばなきゃならないときに、そういう他流試合が始まるわけで、そこで豊中の子どもたちが勝ち抜く力をつけてやるというのが実際的な課題だと。その辺は、庄内地域で検討されている南部コラボセンターの中で、地域が、学校と一緒に子どもを支えるというボランティアがシステム化されるような要素も何とか提案したいですね。他の地域では、中学生が土曜日に勉強することを定例化したり、小学校では毎日放課後勉強会があったり、そういう地域はいっぱいあるわけです。京都府は、第2、第4土曜日を実質の土曜授業に切りかえる方針ですけども、そうじゃなくても、地域の方々が子どもに学ばせるようなシステムをつくっていくんだと。通塾率は庄内地域のほうが他の地域に比べて低いんです。北部のほうが塾に行っている割合が高いんです。だけど、南部地区、

第六中学校・第七中学校・第十中学校の子どもたちが学校で勉強するようなシステムを考えていくんだと。それは教員がやるんじゃないなくて、地域の方やボランティア、有償ボランティアなどを組織化して支えていくんだみたいな意見が出ていたと思いますが、そんなまとめでよろしいですか。僕、しゃべり過ぎていますが、ちょっとまとめたいので。ほかの方、違うとか、言い過ぎだとか、もっと違う観点だとか。いかがですか。

B委員 「0歳児からの」という文言を、是非入れていただきたいです。今年度から教育委員会のほうで、学力・学習状況調査の結果、課題のある児童に対して何とかしていこうという事業が始まりまして、まさに今この南部地区の学校が対象なんです。たまたま私はその中の一部に協力させていただいて、回数は学校によって違いますが、かなり頻繁に6つの学校に行っております。そこで感じるのは、どこの学校であれ、豊中市の全ての先生が一生懸命学校をつくっていかうとされているのは変わらないんですが、学校の状況が大変厳しいということです。みてみますと、やっぱり家庭教育と幼児教育が本当に大事だということを、学校を離れて客観的な立場で入るようになって、本当に痛感しております。是非、もう是非是非それを強くうたっていただきたいと思います。

会長 ありがとうございます。以前、私たちは資料をいただきましたが、札幌の資生館小学校は保育所を併設しております。そういう形も私たちは資料で頂戴いたしました。それも含めて1つの選択肢、特に「0歳から」ということは強く答申に書き込んでいただきたいということだったと思います。

大体もう20分ぐらい経っております、この南部地区の総括には十数分と思っておりますので、とりあえず今日はそういうところでよろしいでしょうか。

C委員 大賛成です。答申の中に、審議会として「乳児から」というところを入れ込むんですね。

会長 B委員、そういうことでよろしいですね。「0歳から15歳」という表現になるかもわかりませんが。

C委員 はい、わかりました。

会長 ありがとうございます。

では、まだ時間を十分につけられなかったかもわかりませんが、本日の主な審議議題であります千里地区の課題にかかわる審議に入りたいと思います。

事務局から資料の説明をお願いいたします。

審議会事務局 資料2「千里地区の再編を試みるにあたっての前提」をご覧ください。

今回の対象となる学校は、そこに書かれている小学校6校、中学校2校となります。ただ、学校再編を考えるにあたりましては、大規模課題を抱える東泉丘小学校も対象となりますので、小学校はプラス1校で7校ということで、今日は校長先生にお越しいただいています。

そうしましたら、まず千里地区の現状と課題から見ていきたいんですが、前回の審議会でも少し話が出ておりましたが、千里地区は南部地区とは状況が異なっております。小学校の児童数は増加傾向にありますし、中学校の生徒数はほぼ横ばい傾向ではありますが、小学校を卒業した子どもたちが入学してきたら、いずれ増加に転じるものと思われれます。5ページ、6ページには、対象学校の将来推計を掲載していますので、参考にいただければと思います。

次に、中学校への進学状況です。第八中学校は北丘小学校と東丘小学校の2校から、

また第九中学校は西丘小学校、南丘小学校、新田小学校、新田南小学校の4校から進学してきます。この2つの中学校の生徒数、学級数は、2つの小学校から進学してくると4つの小学校から進学してくるということで、差が生じているという状況です。

それから、2ページ目ですけれども、第八中学校区の私学への進学率は、ほかの学校に比べて高くなっておりまして、過去3年分を見ていただきましても、そのうち2年は25%を超えているといった状況でございます。これも小規模化の一因となっているかと思えます。ちなみに、豊中市全域での私学進学率は12%程度となっております。

また、上新田1丁目のパークヒルズ、1、100戸ほどの大きなマンション群ですけれども、こちらは本来、新田小学校の通学区域ですので、第九中学校に進学するのが普通ですが、昭和57年の開発当初の状況から、生徒数の問題などで、第八中学校が指定校となっております。この審議会の前身である通学区域審議会の答申に基づきまして、平成17年4月1日から第九中学校に変更されています。この変更は、新田小学校の分割進学の解消、通学区域の正常化が狙いでしたけれども、結果的には第八中学校の小規模化の一因となっております。

次に、対象小・中学校長の主な意見でございます。これは、本日の審議会に先立ちまして、千里地区の校長先生方にお集まりいただきましてご意見を伺わせていただいたものです。これらの意見を踏まえまして、資料3「千里地区再編の試み」を作成させていただいております。

それから、児童・生徒数の多い学校と少ない学校のメリット、デメリット、これは平成23年4月にいただきました答申から抜粋したものでございます。特に3ページ目の小規模校のデメリットの改善や解消が求められているかと思えます。

続きまして、地域特性ですけれども、多いのでポイントだけ。まず千里ニュータウンは、まち開きから50年を迎えまして、マンションの建替えや新規開発が次々進んでおりまして、まちの再生が図られ、人口は増加傾向にあります。

それから、上新田1丁目、2丁目、新田小学校の西側になりますけれども、大規模な土地区画整理事業が行われておりまして、1、000戸程度のマンション開発が予定されております。

続きまして4ページ目、新千里東町の東丘小学校区に、地域自治組織が設立されておりまして、その中に「東丘版コミュニティスクールの検討部会」といったものが設置されております。

それから、西丘小学校では、校舎の全面改築が予定されており、昨年と今年、ワークショップ等で地域住民の意見を聞きながら設計等を行っています。

最後に、市の取り組みですけれども、いきいきスクール、小中一貫教育の取り組み、小学校高学年教科担任制などが上げられます。これらの取り組みは千里地区に限ったものではなく、教育委員会が全市的に取り組んでいる事業、施策になります。

説明は以上です。よろしく申し上げます。

会長 ありがとうございます。千里地区の現状について、資料を中心にご報告いただきました。

まず、資料等につきましてご意見、ご質問ございませんか。

千里地区は2つの中学校があつて、資料にありますように、第九中学校と第八中学校ではかなりの規模の差が生じている。推計ですが、第九中学校は800人から900人

の間、そして第八中学校は200人から300人という生徒数の違いがあると。進学してくる小学校が第八中学校は2校、第九中学校は4校ですよ。その辺をどう考えるかということなんです。いかがですか。

校長先生に話を聞いたら、いわゆる私学抜け、第八中学校区の6年生の4人に1人が私学抜けをすると。委員の皆様、この現状をご存知でしたか。だいたい豊中市全体では12%ぐらい。25%といたら非常に高いんです。東京はだいたい小学校6年生で25%は私立中学に行きますね。京都市もだいたい小学校6年生の25%行きます。12%というのは割と平均的な数字だと思いますね。でも、25%、4人に1人、第八中学校区の6年生は私学へ行く。豊中市北部にお住まいの委員の方はいらっしゃいますか。これはなぜだと思われませんか。なぜ4人に1人も私学に行くんですか。

D委員 そうですね、A小学校からも私学によく流れていますね。

会長 A小学校の進学先はB中学校ですよ。A小学校からは25%も私学に抜けますか。

審議会事務局 B中学校区は、第八中学校区と同じくらい、25%ぐらい私学に進学しています。

会長 そうですね。A小学校、B中学校は別として、第八中学校区で私学抜けが多い理由は何でしょう。ご存知の方いらっしゃいますか。我々の認識と事務局の認識は違うと思いますが、我々の認識はどうですか。交通の便がいいからですか。モノレール、地下鉄で都心の私学へ行きやすい。でも、阪急沿線の小学校はいっぱいありますね。

D委員 進学意識の問題ですかね。

会長 住民の進学意識が違う。第九中学校はどうですか、第九中学校区の小学校は何%ぐらい抜けるんですか。資料にありますね、ほぼ豊中市平均と同じですね。第九中学校区の西丘小学校や南丘小学校などの保護者はそれほど進学意識は強くないんですか。

E委員 私、東丘小学校区に住んでいるんですが、住民の方は、どちらかというところ転勤されてきている方が多くて、関東のほうから来られた親御さんが結構多いというのが、関東で私学抜けが25%を超しているといった話と一致する。

会長 そうなんです。これはあまり審議会の発言としてはふさわしくないんですが、関東では、公立中学校に行かせるようでは親が責任を果たしていないと。教育に関心のある保護者は私学へ行かせるんです。私の友人は全部私学に行かせています。そういう文化を持った方が、豊中の北部、東丘小学校区なり、北丘小学校区に多く住んでおられて、当然のここのように私学を選ばれるんでしょうか。そういうご意見もあるでしょう。

では、第八中学校が小規模化しているから、部活など活性化されていないから第八中学校を敬遠する、という要素ではない、別の要素で敬遠されているんですか。今、第八中学校が豊中で一番小規模な中学校ですね。一方、B中学校は大きな中学校ですよ。でも、25%の子どもが私学に行っているということは、必ずしも学校の規模や部活が決定要因になっていないのかもしれない。

D委員 B中学校に行くのと内申点がとれないから私学に行くという人もいます。

会長 他の中学校に行ったら簡単に上位3%に入れるのに、B中学校に行くと上位に入れないから敬遠して私学へ行く。なるほど、勉強になりますね。

この辺が、学校関係者と市民の、感覚のずれもあると思うんですよ。学校関係者が当然だと思っていることが、市民とは違う場合がある。第八中学校は小規模だから、部活もできないから敬遠されているんだろうと、これは単純に思うんですけど、いやいや、

東京からの転勤族が多くて本来的に私学志向が強いんだという、なるほどな、ということも考えられます。

B中学校は、へたに行っちゃうと内申点がとれないから私学へ行くんだと。これは、25%で数字は同じでも、B中学校と第八中学校では私学抜けの根拠が違うという仮説ができて上がります。あくまでも仮説ですけど。

それで、そのことに対して危機感をもっているわけですよ。だから、魅力ある第八中学校にして、2つの小学校の子どもたちは自信をもって第八中学校へ進んでいきたい、来てくれるような学校にしようということでしょうか。

数的には、生徒数が200人から300人あったら都市部の中学校ではもう過小規模じゃないですよ。100人を割っている中学校がいっぱいあるんだから、都市部では。100人を割ったら過小規模です。でも、200人から300人だったら過小規模とは言えない、既に今の時代は。だから、第八中学校だけを取り上げて過小規模中学校だといって特別に論じるだけの根拠はない。むしろ25%もの子どもが私学抜けして敬遠されている中学校を魅力ある中学校に変えるということは——どうぞ、F委員。

F委員 答えにくいかもしれませんが、当該小学校の先生方いらっしゃっているわけですよ。抜ける要因というのは、言いにくいかもしれませんが、どうなのでしょう。

X校長 私もこの数字を見てびっくりしています。実は、私が赴任したのは平成23年度なんです。平成22年度に確かに私立中学校にたくさん進学したという事例を聞きました。数字からいうと、平成23年度は当校から私学へ抜けたのは8%なんです。次の平成24年度、今年度は10%なんです。私学への進学率が、豊中市平均より下がっているんです。どこでどう下がったのかなと思うと、第八中学校の魅力をだいぶ訴えていったんです。小中一貫教育の「いきいきスクール」の魅力だとかそういうのをだいぶ訴えました。保護者の方にもPTA総会などで訴えたから私学抜けが少し減ったかと思っていましたが、全体を通してみると多いので、ちょっとショックを受けています。

保護者や子どもの話を聞いていると、会長がおっしゃったように、部活が少ないというのは一つの理由だというのはあります。少ないから、部活の人数が集まらないから、部活がしにくいから行かないということも聞きました。自分の好きな部活ができないというのは理由としてあがっています。

それから、所得の高い方はやっぱり自分が受けた教育、私学教育を受けさせたいという気持ちがおありなので、それが4分の1という形に出ているのかなと思います。

以上です。

会長 よくわかりました。

Y校長 私は今年の4月から赴任してしまして、事情はよくわからないんですけども、卒業生の60人のうち20人ぐらいは抜けていくという状況を聞いてしまして、それで中学校に魅力がないのかといたら、そうでもないと思っています。もともと当校区に引っ越してくる方は、交通の便がいいのでこの私学にも通えるということで、小学校は公立に行っ、それが終わると中学校からは中高一貫といいますか、私学へ行こうという人の流れができていないかなと思っています。

地域自治というのが今年の春から始まりました。そこで、地域版コミュニティスクール、小中一貫校というのを私は言い出しています。「豊中千里学園」という名称を地域で言っています。この「千里学園」という名前にはすごく地域の人が興味を示して、た

だクラブがどうこうとか学力がどうこうじゃなくて、「豊中千里学園」という名前、ブランドに結構魅力があって、そういうことを提案したら、今地域の皆さんと一緒に、地域版コミュニティスクールということで、小中一貫校をめざそうという話し合いを真摯にしているところです。

ただし、小中一貫校というと、中学校と小学校、小学校と小学校と一緒にないといけないため、結構時間がかかるということで、コミュニティスクールという部分も注目しながら話し合っています。

千里地区というのは、神社仏閣がないんです。神社仏閣がなくて、主となるコミュニティを支える施設がないということで、見回してみますと、やっぱりそれを支えることができるのは学校じゃないかということで、コミュニティスクール、小学校が核になって、施設を利用しながらということで、その先は小中一貫校、できたら小中高一貫までやろうかなと思っています。

会長 またご意見を頂戴すると思います。この千里地区の課題をまずどう認識するかということです。課題なんかあるのか、個別に学校を見て、いわゆる数字で示される学力は高いじゃないかという意見についてはどう対応すればいいですかね。南部地区の課題は比較的是っきりしていた。千里地区の課題はどこにあるのか。どうですか。

G委員 話が戻るんですけど、今思い出しました。お友達がこの地区に住んでいて、そのお友達のお友達が転勤族で東京から来られた方で、クラスの子の家に遊びに行って、トラブル等があって、それがずっと何年間も続いていて、このまま、人数が少ないままその中学校に上がると、またその子と一緒にするのが怖いから、何とか私学に逃げたいというのを以前に聞いたことを思い出しまして、そういうことも中にはあるかもしれません。

会長 なるほど。そういうふうに言われてみると、確かにそういうこともあるのかなと思います。

それからもう一つは、神社仏閣のことがありましたが、千里ニュータウン、万博のときに開かれたあの新しいまちも、今もう一回コミュニティの核を求めているんじゃないかと。もう一回千里地区が地域として成立し、地域として子どもを育て、地域として夢と希望のある人材を育てていくためには、学校は核としてそういう役割を担っていくべきではないかという課題がやっぱりあるんだろうと、私はそう理解したんですけども。そうしますと、さまざまな形で、第八中学校、第九中学校を軸にして、小・中学校が軸となってそのコミュニティを新しくつくっていく、再編する、そういう役割、そういう課題が千里地区にはあるんだろうと私は考えました。ただ小規模校だからどうするか、そういう問題ではなくて。まさに千里地区は千里地区なりのそういう地域性、そしてそこから出てくる課題というものはあるのかなと思ったりしました。

F委員 私学抜けの話は、もちろん理解するのに非常に役に立っているのですが、ありがとうございます。ありがとうございます。今のうちに、例えば個別的な出来事を審議会場で共通理解するのは、私は非常に危ないと思います。もちろん話していただいたことは役に立っているけども、豊中市が私学に抜けることについて真剣な問題意識を持っているなら、卒業するときに、何でこの学校に行くんだという理由を探るために悉皆調査をして、そのデータをもとに検討されないといけないし、私たちはそのデータを基本にして検討すべきだと思います。今それぞれ話していただいたことは非常によくわかったんですが、そのことだけで今の話を主体にしたりとか、議論の前提にするというのは、話していただいた方にもかえっ

て申しわけないことになったらいけないと思って、ちょっと押さえてみたんです。

それともう一点は、直接関係ないんですが、今は中学校に進学するときの私学の話ですが、そもそも公立小学校に行かず私立に行っている子どもたちの存在はどんなふうになっているのかということも、例えば魅力ある小中一貫校をつくったらその子どもたちも戻ってくるんじゃないかとか、そういうことも考えていかなきゃならないです。すぐこのデータを出せというわけではないんですが、私立と、しっかり並び立ってアピールできるようなことを考えるんだったら、小学校も当然視野に入ってくるかと思いません。

ただ私は、あまりそこで競争的に検討する必要もなく、比べてどうこうというより、私たちは「豊中の教育はこうなんだ」ということをしっかり打ち出していければいいとは思っているんですが、前提はそうなんですが、状況を把握するのはもうちょっと慎重に、丁寧にされたほうがいいなと思っています。

会長 よくわかりました。臆測とか、個別事例には注意しろということですね。それを踏まえた上で、闊達なご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

確かにデータがありませんもんね。僕も、言われてみてはっと気がついたということはそういうことなので、それが本当なのかどうかまだわかっていないのに、それを前提に議論するのは難しいかもしれません。そういう印象を受けることが多いということは言えるかもしれませんね。

F委員 質問していいですか。「対象小・中学校長の主な意見」の2つ目、西丘小学校の話ですが、この文章だけで見ると、小学校は地域の中心になっている、西丘小学校が新千里西町の地域コミュニティの本当に中心に位置づいているのはわかるんですが、そのことがなぜ第九中学校から第八中学校に変更するのが難しいのか、私にはさっぱりわかりません。

Z校長 この間の言葉が抜けています。小学校もちろんコミュニティの中心、そしてそのコミュニティをつくってらっしゃる皆さんがみんな第九中学校をつくったという意識があるんです。だから、自分たちがニュータウンに来たときに、何にもない第九中学校を育て上げたという意識がありますから、今さら違うところに行けと言われても難しいということです。

F委員 しつこいようですが、私「難しい」というのがひっかかっているところなんです。それは今通っている子どもたちじゃなくて、その地域のかかわりの話であって、ですからその次の世代が別の中学校に行くことと、そのOBやその人たちがその地域を守ることとは直接的にどこまで結びつけなきゃならないのか、私はよくわからない。ですから逆に、それだけ学校をつくり上げる力があるなら、新しい校区になって、その校区をつくり上げていく力は西丘小学校区のコミュニティにはないのかと、逆に問いたいです。

会長 少し補足しますと、校区割りを見たときに、西丘小学校の卒業生が第八中学校へ来れば非常にバランスがいいんじゃないかと誰でも思うわけです。その議論もあったんです、この審議会。そしたら某委員が「西丘小学校の進学先変更はあり得ない」「西丘小学校と第九中学校の関係はすごいんだ」と発言されました。それを言ってしまうと、校区問題で議論ができません。うちは代々この学校だからここなんだという議論になればだめだから、恐らくF委員は、西丘小学校区だけを例外視することはできないとおっしゃっている。庄内、南部地区では、いくつかの学校が進学先の中学校が変わる可能性もあり

ます。なのに千里の学校だけは変わらないんだという前提はおかしいとおっしゃったと思うんです。これまでのことはわかるけれども、これからは全くフラットで考えないと、庄内地域の小学校は、これまで第六中学校に行っていたのが第七中学校に変わったのに、千里地区の小学校は依然として変わらないというのはおかしいですということを言ったんですね。そういうふうに聞いていただいたらありがたいと思います。

ほかには何かありますか。まず、課題ですね。

一遍事務局に聞いてみましょうか。事務局は千里地区の課題はどこにあると思っているんですか。

審議会事務局 これまで議論してきているといいますか、中間まとめにもございますように、千里地区につきましては、規模の小さい学校と、規模の大きな学校が混在していると。なおかつ、第八中学校と第九中学校は同じ地域にありますが、その差があるということがまずあるかと思えます。

それと、規模の小さい学校につきましては、先ほどのクラブ活動であるとか、そういう活動に支障があるのではないかと。それから、クラス替えができない小学校の状況が続いていると。そういうことについて、何らかの改善といいますか、工夫が必要ではないかということで、この学校の適正規模と通学区域のあり方について審議していただきたいと認識しておるところでございます。

会長 確認でございました。

今日いただいた資料を見ますと、北丘小学校も東丘小学校も、例えば5年後、10年後の急激な減少を予測されているわけではないんですよね。むしろ微増ですよ。だから、小規模化は徐々に改善されていくんですよ、予測としては。開発も進められているようですね。

審議会事務局 今回の試みの5番目のところにも書かせていただいておりますが、北丘小学校と南丘小学校の校区内におきましても住宅等の再開発の動きが出てまいりましたので、今後児童数が増加することは見込まれるというふうには考えております。

ただ、第八中学校と第九中学校の規模の差、さらに第九中学校がこれ以上生徒数が増えますと、増築、または通学区域の変更の必要性が出てくるということがあるとは認識しております。

会長 第九中学校の規模という問題もございますね。第九中学校が非常に大きくなってしまっておそれがあります。今の校舎では収容し切れなくなることはほぼ間違いないんですよね。増築が必要になる可能性がある。

審議会事務局 はい。今、北丘小学校区と南丘小学校区の再開発の状況がまだ見えてきておりませんので、どのような形になるかはわかりません。ただ、西丘小学校と東丘小学校の例を見れば、南丘小学校も同じように児童数は増えるのであろうと。そうした場合には、第九中学校の収容の問題、それから教育内容の問題が生じてくるんだろうと、思っているところでございます。

会長 委員の皆様、千里地区の課題、千里地区の学校をどうするかということについて、何かよい提案はございますか。

小学校を中心に「千里学園」というふうな構想も進んでいる、これはすばらしいと思います。これも地域からつくり上げた発想ですからね、非常にすばらしいと思います。それを、例えば具体的にはそういう動きを教育委員会に訴えられて、そういう学園の名

称を使うことを認められてやっていかれるということも一つの考え方ですね。何も施設一体をつくらなくても、1中2小の施設分離型の小中一貫教育はごく普通に行われています。しかも、それをコミュニティ化するという思い、それを下からつくり上げていくという、一つの大きな取り組みですよ。ある程度形があるという校長先生のお話でしたから、我々はそれを参考にして、「取り組みを支援できるような体制をつくるべきだ」という答申の書き方はありますね。具体的にこうしろじゃなくて、既にある取り組みを支援するという形で。小学校ではこういうふうな取り組みがあって、校長先生が少し効果があるとおっしゃいました。コミュニティの意識が広まってきて、小学生が第八中学校へ行き出しているとおっしゃった。それをもっとはっきり「千里学園」という名前をつけて、施設一体型ではないけれど、小中一貫教育でコミュニティスクールをめざすということならば、そういう取り組みを後押しできるような答申の書き方もあると思うんです。

H委員、いかがですか。

H委員 もう随分昔の話で、30年ぐらい前になりますが、私は東京から引っ越してきました、子どもが中学校へ入りましたときに、豊中の学校は何で全部ナンバースクールなんだろうということに不思議に思ったんです。機械的だなと感じました。愛着がそれほどわからないなという思いがしました。それで、今新しい構想の「豊中千里学園」という名前も出てきましたが、大阪の統廃合、小学校なんかでずっと私見てきて、京都も見てきましたけど、やはり統廃合や通学区域の変更というときには、今までのいきさつがありますので、次に新しいものをつくっていくんだという発想にならないとなかなか難しいのではないかと思います。全部が全部はできないかもしれませんが、ナンバースクールをなくしていくという、この千里地域で突破口を開いて、新しいものをつくって、新しい学校をつくるということによってやっていったらどうかなという感じがするんです、教育内容も含めてですね。そういうことで地域もまた1つになるということしかないんじゃないかなという気がいたします。

会長 ありがとうございます。以前の審議会で、現職の先生に説明していただきました。豊中のナンバースクールはフランス革命の理念だというふうに説明されて、ええ、そうですかと思って聞いたんですが、平等だということですね。でも、もし第十中学校が、1中1小の施設一体型の小中一貫教育校になれば、「庄内学園小・中学校」ということもあり得ますよね。僕は、第六中学校、第七中学校と第十中学校の3つを含めて庄内学園でいいなと思ったんだけど、第六中学校、第七中学校を残す。「豊中千里学園小・中学校」、H委員の提案として、いかがですか。

教育長 ちょっといいですか。何度も議論は重ねてきているので、また同じことを言うてしまうかもしれませんが、やっぱり第八中学校が今豊中で一番小さい学校だと。次、第十八中学校も小さいということで、ほかにも小さい学校はありますが、中学校で小規模だと教科教員の配置が非常に難しいことになります。ある程度の規模がないと。例えばその学校で体育の先生がたった1人しか配置できません。1年生も2年生も3年生も見ないといけません。授業を全部見ないといけません。中間テストや期末テストは3学年全部つくり、評価も全部しないといけません。これは子どもたちにきっと不利益になると僕は思います。僕がもし親なら、そういった学校に子どもは行かせにくい。音楽の先生も多分1人、美術の先生も1人、技術家庭の先生も1人。ここが小学校と違うとこ

ろで、教科教員の配置で非常に厳しいことが強いられますので、第八中学校のこの状態は、ちょっとずつ生徒数が伸びていくからいいんだというような問題ではなく、ここで変えてあげないと大変だと思っていて、小中一貫という形になれば少し解消できる面があるのでは、もしくは特区的な制度がとれば、そういった教科教員の配置も、定数法だけじゃなくていろんな工夫ができるのではということがあり、こういう提案を事務局としてはさせていただいているところです。中学校の現状は、子どもの数が少なければ少ないほどクラブも大変ですが、もっと大変なのは、先生の配置ができない。子どもたちが不利益をこうむる。進学ときに私学を回るのも、少ない先生で回るのであれば当然、回る範囲が限られてしまう。また子どもたちの不利益になる。これを繰り返してしまいます。そういったことを解消するためにも、ナンバーズクールもそうですけど、是非新たな形で新しい学校の形態をつくってあげてくれればありがたい。もし第八中学校で小中一貫、施設一体型でもできるのであれば、そこは第九中学校区から来てもいいということで、第九中学校の子どもたちを回収できるかもしれない。いろんなことを想定しながら事務局としては試みの案を出させていただきました。別にエリート校をめざしているわけではないので。ただ、第八中学校は、すごくできるんです。25%以上の子が私立へ逃げていってますよね。残った子どもたちだけでも学力が高いんです。そういった潜在的な力を持っていますので、もっと伸ばしてあげられるだろうかと思います。是非そういったところも加味して、小中一貫で何かできないかなと思っています。

会長 繰り返しません。ということなんです。私が冒頭、200、300は極小でないと言ったのは、全国的に見るとそうですね。もう200人ぐらいの中学校は全然珍しくありませんので。豊中市は、都市部だからそういう規模の学校ではもう運営できない、もっと大きな規模の中学校で、教科教員もきちんと複数配置するというの是一個のポリシーだとは思っています。そういう方向で、この中学校をもっと魅力ある中学校にしていって、今25%の私学抜けしている子が第八中学校へ帰ってくる。ひょっとしたら、一方通行の選択制を導入して、第九中学校へ行っている子も第八中学校へ行くかもわからない。そういうご意見だったと思います。

それは、一つは第八中学校の問題ですよ。小規模化している第八中学校の問題。そのことと、東丘小学校がやっておられる地域づくりというものをうまく絡めていくことができるかもしれませんね。

F委員 これは会長に質問なんですが、1中3小で小中一貫という実践はあるんですか。

会長 あります。

F委員 こだわっているようですが、あまりにも第八中学校と第九中学校の差があり、それは何とかできないのかという感じがしているので、今の質問になったわけです。

会長 なるほど。小規模化対応だったら、西丘小学校を第八中学校の校区に編成すれば終わりだということですね。そういうことですね。

F委員 はい。

会長 これはF委員の持論でございます。確かにそうです。

Z校長 1点だけよろしいですか。地図上、西丘小学校が第八中学校に進学するのはきれいです。それは認めます。でも、新千里西町（西丘小学校区）は第九中学校に一番近いんです、目の前にあるんです。ほかの学校はないんです。要するに、50メートル歩いたら中学校があるところにたくさん家がある。そして、第八中学校に行く場合は、千里中

央の繁華街を歩いていかなくちやいけない。怖い竹やぶを歩いていかなくちやいけない。大きな新御堂筋を渡っていかなくちやいけない。つまり、もともとつくられたときに、第九中学校を中心にしてつくられた南丘小学校と西丘小学校なんですね、通いやすいように。だから、そのあたりのことも、地図上で見るだけじゃなくて、実際に見ていただくことも大事なと思います。

会長 助太刀するわけではないですが、F委員はよくご存知です、実際に見るべきことも。その議論もしているんですよ。

ですから、僕が言ったことは大事で、第八中学校の小規模校化が千里地区の課題であれば、一般の方などから何で西丘小学校を校区再編しなかったのかという議論も出てきますよ。だから、それに答えるすべが要りますよね。今その確認ですよ。だから、施設一体型の特別な学校をつくるよりも、中学校区の再編というんですが、東丘小学校と北丘小学校と西丘小学校の進学先を第八中学校にすれば、第九中学校の生徒数も少なくなるし、ベストではないかと一般の方は言いますよ。事情がわからないという議論は実はなかなか通じないんです。それがひょっとしたら合理的かもしれないということを彼はずっと言っているわけです。

ですから、ちょっとここにひずみがあったと思うんです。教育長はあえてその小規模化をおっしゃったけど、小規模化だけでは第八中学校の、あえて言います、てこ入れにはならないかもしれませんね、もうひと味工夫しないと。第八中学校自身を魅力ある学校にするということを同時並行にしていっていいかもしれませんね。今東丘小学校や北丘小学校でやっておられるコミュニティを発展させていって、抵抗の多い西丘小学校の校区再編よりももっと効果的な学校づくりができるんじゃないかという書き方はできるかもしれませんね。

F委員 私の個人的な思いです。私は吹田で、目の前に青山台中学校があるのに古江台中学校に通ってましたから、そういう議論で言うと何もできないわけです。もちろん千里中央の繁華街を通る、新御堂筋を越えるのが危険で大変だということはわかりますが、では新しく税金を投入して、空いた第八中学校の活用など何にも努力もせずに第九中学校を増築しますというのは、タックスペイヤー（納税者）にとって本当に理解されることなのかという、そこの話なんです。

会長 そうなんです。第九中学校は、将来的には税金で増築もしないといけません、ということもありますね。

I委員 民間の計画で、今の第九中学校区と第八中学校区は全然違うんですよ。この資料にもありますように、上新田の再開発等を含めると、会長さんが言われたように、第九中学校はマンモス中学になる可能性が強いです。UR（都市再生機構）の計画、旧住宅公団の建替えが今後5年間で特に千里ニュータウンを中心に行うという計画を聞いているんですが、特に東丘小学校区の計画が今後どんどん進んでいくように聞いています。それと、千里中央のよみうり文化ホールのマンモスマンションの開発計画もありますので、その辺でちょっとは是正されると思うんですが、先ほど西丘小学校の校長先生が言われましたが、新御堂筋を越える、今は中央環状線を越えておられるわけですね。

Z校長 中央環状線は……。トンネルです。

I委員 トンネルでしょう。どっちにしたって越えますよね。だから、我々第三者から見たら1中3小が一番理想かなと。今後第九中学校はどんどん生徒数が増えますので、西丘小

学校が第八中学校区に校区編成されるのが今後一番理想だと思うし、現状のままでしたら、第九中学校はマンモス中学になる可能性があるのでは。

会長 というご意見も出ました。ここは、事情を知っている人じゃなくて、客観的な議論をしてもいいわけですから、単純に第九中学校の問題も絡めていくと、西丘小学校の進学先を変えるのが一番合理的ではないかというご意見だったと思います。

D委員 詳しい事情は知りませんが、割と近所なので。西丘小学校のあのあたり、すごく新しいマンションの建替えなどを行っていますよね。そこに引っ越してくる人たちは、特に第九中学校区だから、と考えて来るんでしょうか。

かつての方はすごくこだわりがあるかもしれませんが、今の現役の保護者、引っ越してくる人は、ちょっと知りませんが、例えば不動産屋の第九中学校区という宣伝が役に立っているのか立っていないかという、そういう質問です。

教育長 西丘小学校区のエアヒルズというマンション、インターネットのホームページで僕も見ましたが、第九中学校区というのを前面に出して、非常にきれいに第九中学校を撮っておられて、西丘小学校もきれいなんですけど、夢のような中学校に写真では写っていますから。全面的に、エアヒルズの広告では第九中学校を出してはりますよね。

J委員 うちの南桜塚小学校区の曾根東町1丁目は第三中学校へ行くんです。第一中学校はすぐそばに面してある。でも、誰も文句を言わず第三中学校に行きます。簡単に言ったら、第三中学校がいいからということです。だから、同じようなことなんですけど、ただ遠いだけとか、そういう問題とかでこれを解決しようと思ったらとても無理なんです。だから今言われているように、やはりある程度理論でいかないと。最初に西丘小学校の人が第九中学校にものすごく熱意をかけた。それは曾根東町1丁目の人達に言わせたら、第一中学校にものすごく熱意をかけたのという声があるわけです。それは事実。だけど、年をとって、親御さんはそう言うかもしれませんが、子どもたちにとったら小学校の子が全部一緒に行ける第三中学校がいい。むしろ子どもにとったら、自分たちの仲間と一緒に同じ中学校へ行けるということのほうが、分割されるより嬉しいからそう言っているわけです。だから、その辺のところも考えていかないと、親の目線から見ていく考え方と、子ども達がどうあるべきかという考え方でいくと、やはり分割されるよりそのまま一緒に、少しくらい遠くても行くほうが、より、僕はそういう意味では校区編制すべきだと思います。

K委員 今の課題が、第八中学校に対して、小規模校になり、魅力をつくらうということですが、例えば第九中学校を増築しながら第九中学校にも魅力をつくるという考え方を持たないと、結局第九中学校がいっぱいになるから第八中学校に入れたらいいのではという、人だけの整理をするのではなく、第九中学校にも投資して、魅力ある第九中学校をさらに魅力あるものにしたら、お互いが、第八中学校は小規模校で非常に日本でも有数な学区に、学力の向上校になるでしょうし、第九中学校もその学校なりにまた魅力をつくれれば、それなりのバランスはとれるのでは。それだけの税金は投入しないといけません、そしたら住民も納得するようなものに落とし込めるんじゃないかと思うんです。

ただ人員の整理、子どもたちの学区の編成だけではなくて、第九中学校にやはり何かの投資をしていかないとはいけません。それも一案だということです。

L委員 初めの頃に、どうしましょうかといったときに、あまり住民の意見を聞くとこれは失敗ということになるというスタートから始まって、確かやはりきちっと厳しくいきまし

よう、区割りでいいんじゃないかという意見も出たと思うんです。そういう中で、本当に今の課題だと、区割りでいって、通常云々よりこうですよねといったら、今F委員がおっしゃったようなこともあるかと思います。

話の中に魅力のある学校ということがいっぱい出ていますが、魅力って誰がつくるのかと思うんです。いくらいい教師を投入したとしても、やはり受け入れるのは子どもたちなんですね。だから、実際第八中学校の生徒さん、第九中学校の生徒さんも、本当に今そこに通っているのがいいのかということ。もしかしたら第九中学校のほぼ半分が実は第八中学校へ行きたいと思っているかもしれません。ただそれは、どうこう言うのは結局親で、この地域に来たんだからうちも第九中学校ですというのでずっとやってきたと思うんです。ですから、今本当に難しいと思うなら、一回生徒さんに、第一中学校から第十八中学校まであるけど、君たちどんな中学校に行きたいか言ってごらん、ただしその理由は何かなということをお聞きしたときに、その中で子ども達っていろんな発想が出てくると思うんです。もしかしたら、少ない第八中学校のほうがいい、なぜなら自分を磨けるからという子も出てくるかもしれません。そこで初めて、子どもたちのその夢を実現させて、初めて魅力ある地域とか学校が成り立つのではないかと思います。

議論を聞いていると、大人が目線かなと。あるいは当初言いましたよね、あまりもう豊中にマンションを建てないでください、断ってくださいと言ったこともあるんですが、実際本当にそうかなという現状で、マンションが建つたびに人数増えるのかなとか、いろいろと本当に心配しております。ですから、もしそういう機会があるならば、一体子どもたちはどういう中学校へ行くことを望んでいるのか、あるいは本当は僕たち私学へ行きたいんです、豊中の中学校には魅力を感じませんという子どもたちも出てくるかもしれません。ですから、そこをやはり大切にということ。やはり現場は子どもたちですので、その目線も大切なのではないかと感じます。

ただ、こういう切羽詰まった席で大変申し上げにくいですが、やはりそういうところも心の中に思いながら進めていったほうがいいのかというのが一つの思いです。以上です。

会長 そうですね。よくわかるんですけど、そもそも通学区制というものが行政主導なんです。もともと通学区を敷くということはそういうことなんです。だったら、もう完全オープンにしたらいいいわけですよ。

いろいろな意見、教育長から選択制も考えてほしいということもあり、柔軟な選択制も考えていますが、地域づくりという意味では通学区はあったほうが便利です。東京も学校選択制を撤退していますが、学校選択制のメリットは1つです。学校を潰せる。大阪市の場合、学校を潰す予定で選択制を導入しようとしていますけど、小規模校はあつという間に極小規模校になりますからクローズできるんですけど、同時に地域は解体して、今、東丘小学校区がやっておられるような「我が学校づくり」というのも急激に衰退していきます。結果、私学抜けも減ります、逆にね。だから、選択制も一長一短あるんですよ。まあ、それは置いときましょう。

だから、子どもの意識はよくわかるんですけど、通学区制とは表裏の関係にありますね。通学区制を設けるということは、やはり行政が豊中の小学校をバランスよく配置し、整理するためには、子どもの思いよりも行政的な思惑が優先されてくるのは事実です、残念ながら。イギリスは1988年から全域で通学区をなくしまして、完全選択制です。子どもの意思で学校を選べます。それは先進国の主流ですけどね。結局あの国で

は、富裕層は皆私学に行っていますから、あまり関係ないんですけど。まあ置いておきましょう。

議論を戻しますね。千里地区の課題、1つは第八中学校の小規模化です。意外に第九中学校のことは論じられない。第九中学校は建物を建てるということで対応すると。でも、これも逆に言えば、どこに建てるか僕は知りませんが、グラウンドが狭くなったり、そういう子どもの活動に弊害をもたらすのかもしれない。そして、規模の問題があった。そこで、僕が後で教えてもらったのは、文化的、所得格差があるんだから、新しい地域をつくっていく観点で学校づくりが必要だということをおっしゃった。規模の問題だけだったら、F委員がずっとおっしゃっているように、もう一度通学区を再編すれば規模の問題は解決できるだろうと。ここで西丘小学校の校長先生に申し上げますが、我々、その西丘小学校と第九中学校の事情は熟知しております。熟知している上でF委員も発言しておられると思うんです。しかし、先ほど意見がありましたように、合理的にいくのがいいのではないかと。答申にはやはり合理性がないといけませんからね。なぜこういう答申を書いたのか、誰に対してでも説明できないといけません。西丘小学校と第九中学校の密接な関係があるから、触れられないんですなんていうことは、合理性があるようでないということに僕は気がつきました。僕も西丘小学校を動かすのは難しいと思っていましたが、F委員みたいに筋論でいくと動かすべきだと言われると、議論しないといけませんよね。先ほどI委員、それからJ委員からもそういう趣旨のご発言でしたよね。

教育長 会長、お聞きしたいのですが。いくつか統廃合を試みている大阪府内の町もありますし、全国的にもあるでしょう。先ほど西丘小学校のZ校長が申しましたとおり、やはり頓挫しているのは大きい道を渡るときなんです。経験則で、小学校は特にそうです。例えば今、四條畷が2つの小学校を1つにしようとしていて、前に教育長と話しさせてもらったところ、やはり頓挫していると。ある地域から回る子は外環状線を渡らないといけません。こんなのは絶対だめだということで、地域住民が、保護者も一切認めないということになってしまうことがあり、やはり大きい道を越えるということについては、いろんなところの経緯を僕が聞いている範囲では非常に難しさがあり、それ（西丘小学校区を第八中学校に変更するという答申）をもしいただいても、事務局でその校区を説得してこいと言われても、難しいと僕らは思っています。だから、このような形で試みを出させていただいたんです。だから、「経緯はわかっているけど、合理的にやれよ」と言われてしまいますと、受ける事務局が受けられないというふうに……。

会長 それを言われると審議できませんが。

教育長 申しわけありません。

会長 逆に言いますと、それをやるのが事務局ですね。だから、それだったらもう審議できない、西丘小学校は第九中学校というのは既定の事実になってしまいますね。僕はそう思ったのですが、やはりお二人の委員、あるいはF委員の話も我々は十分議論したということが要りますよね。それは事務局ができないからではなく、さまざまなものを勘案したときに、校区は現状のままで、第八中学校に何らかの新しいものをつくるという結論であれば答申が書きやすいですね。「事務局が無理だから」、これは答申に書けません。書いてもいいですが、書けませんよね。本音を言っていたんですけどね。それは聞いたことにして、我々委員の責任で議論を進めましょう。よくわかっているつも

りです、難しいことは。

I 委員 新御堂筋にトンネルを掘ればいいじゃないですか。条件は一緒でしょう。中央環状線のトンネルと新御堂筋のトンネルも条件は一緒になるから。そのほうが安くつきますよ、第九中学校に増築工事するより。

A 委員 第八中学校が小規模校になって余裕教室がたくさんあるからそれらを活用するという発想に立ち、先ほどH委員がおっしゃった「新しいものをつくることによって再編する」ことを踏まえ、第八中学校を中心として北丘小学校、東丘小学校、西丘小学校を、さっきY校長が言っていたように「千里学園」、小中一貫校ということに。北丘小学校、東丘小学校、西丘小学校は、例えば小学校5年生、6年生になれば第八中学校へ行って勉強する、教科担任制を敷いて、そこへ行って勉強するというふうな新しい取り組みをすることによって3小1中という校区を考えるというアイデアはどうなんですか。

会長 もちろんあると思います。あえて西丘小学校も含めておられるんですね。

吹田の竹見台中学校区は、2つの小学校が、6年生は毎週金曜日に中学校で勉強していますし、そういうことも始まっていますので。そういうイメージですね、教室も空いているし。そうしたら、小小連携もできるし、そういうことだと思います。新しい発想でということですね。

G 委員 本当に市民目線なので、突拍子もないことを言っていると思うんですが、新田小学校の地区に2つ、大規模マンションが竹林に建つと思います。それが建つとすごい数になると思うのですが、新田小学校は第八中学校からは相当遠い場所になるんですか。地図が私わからないので。西丘小学校を動かすのは地図上はすごくきれいだと思うんですけど、この新田小学校の地区もかなりの通勤族が、通勤で来られています。地の人よりも通勤族が多いので、そこを動かすとかということはできないんですか。

会長 資料3に校区の数字が書いてありますよね。まず、その新田小学校区に該当マンションができて、かなり児童数が増えることは予想されるんですか。

審議会事務局 本日お示ししました資料2の5ページ、6ページに記載されています将来の児童・生徒数ですが、今ご指摘がありました開発計画につきましては、既に織り込み済みでございます。

それともう一つ、G委員からのご意見で新田小学校を第八中学校区に変えられないのかということですが、この点につきまして、中間まとめでも記載しておりますが、そういったことをした場合に、新田南小学校が第九中学校区で残るという形になってこようかと思えます。ということは、地図で見ていただきますと、新田南小学校から第八中学校区を横切って第九中学校に通うという状況が発生しますので、よろしく願います。

会長 すみません。今さらですが、資料3の3ページ、試み②はどういう案なんですか。

審議会事務局 これは中間まとめにもございます案で、東泉丘小学校で今後教室不足が発生する可能性があるということと、東泉丘小学校が第十五中学校と第十七中学校に分かれて進学する分割校であるということがございます。この課題を解消するにあたりまして、北側でございます南丘小学校が児童数の少ない学校であるということで、通学区域の変更を考えたものでございます。

新千里南町3丁目は、もともとは南丘小学校の校区でございました。東泉丘小学校が新設された折に、通学区域の変更した地域でございます。ですから、もともとの新千里

南町3丁目を南丘小学校に変更し、なおかつ東泉丘小学校の分割を解消するにあたりまして、東泉丘2丁目をこれまでと同じ第十五中学校に通う小学校として、東豊中小学校に通学区域の変更をするという案をお示ししたものでございます。

結果、東泉丘小学校は全部十七中学校に進学して、今後の教室不足の心配がなくなるという案でございます。

会長 そうすると、第九中学校はまた膨れるんですか。

審議会事務局 そうなった場合には、現状のままでは第九中学校が約100人程度増える見込みでございます。

会長 新田小学校の場合は、新田南小学校との兼ね合いが新たに生まれてくるので、なかなか納得してもらうのは難しいのではないかというご意見だったと思います。

M委員 私、南丘小学校の南側で眼科を開業して42年ほどになります。開業してからずっと、西丘小学校と南丘小学校の眼科校医をしてきました。両校を見てきたんですが、西丘小学校と南丘小学校では児童の雰囲気が全然違うわけです。というのは、西丘小学校は、昔から大体同じ生活レベルの方が多くて、考え方も非常によく似ていて、まとまりやすいんです。ところが、南丘小学校の場合は、今は離れていますが、新千里南町3丁目まで含んでいましたから、いろんな層の人がいて、全然学校の雰囲気も違いました。ちなみに東丘小学校は、集合住宅ばかりで、個人住宅は全然なかったわけです。北丘小学校の区域である新千里北町は個人住宅も多かった。ところが、ご存知のように今は高齢化してきました。私が開業した頃は、私が平均ぐらいの年齢でしたが、今は高齢者が非常に増えてきました。私は初め、子どもたちが成長して、子どもたちがこの町をつくっていくと思っていたんですが、そうではなく、親というか高齢化した人たちが町に残ってしまいました。子どもたちは川西とか北の方、ほかのところへ移ることが多いです。今新しいマンションがいっぱいできて、住んでいる人は皆よそから来た人たちばかりです。そういう人たちの子どもが今通学するようになりました。だから、昔から暮らしていた人の子どもたちはここにはいません。先ほど意見のありました西丘小学校と第九中学校とのつながりというのはあまりないと思うんです。だから、新しい人たちは合理的なことを非常に理解できますから、先ほどI委員がおっしゃったように、通学路がきちんと整備され、そして第八中学校の魅力というか、新しいことが行われるのであれば、第八中学校に通学することにそんなに抵抗はないように思います。ですから、やはり新田小学校を第八中学校へ持っていくというのは、土地からして古い家が建っているところですから、大変難しいと思うので、やはり西丘小学校を第八中学校へ移すのが一番合理的だと思います。

会長 ありがとうございます。繰り返しません、そういう意見でございました。長くその校区にいらっしゃる委員のご意見でございました。

時間がほとんどありません。もう一回千里地区の議論をできる機会がありますね。

審議会事務局 はい。ご審議いただきたいと思います。

会長 そうですね。今日、僕はだいぶ深まったと思うんですね。ある意味、僕なんか既成の考えにとらわれておりましたので、委員の皆様の重要な、あるいは本当に斬新なご意見を聞いて、目からうろこの場面が何度かありました。地域事情もよくわかっております。委員の皆様は西丘小学校、第九中学校ともよくご存知でございます。そして、新御堂筋のこともわかっておられます。その上で、今日のF委員の意見、それに加えてお三方の

委員の意見、計4名の意見は非常に議論の糸口になったと思います。

しかし、教育長が話されたようなことも実際的な課題としてはあるでしょう。また、校長先生の思いもあるでしょう。しかし、それらを勘案して、我々は何らかの答申をまとめなければなりません。千里地区の課題、第八中学校の小規模化、もっと言えば第九中学校の大規模化、大規模になるなら校舎をつくれればいいという問題でしょうか。それもあります。そういうことも含めて、もう一回、私たちは何らかの答申を書かねばなりません。両論併記というのがあります。しかし、1本にまとめるのがベターでございます。どうぞ次回まで、もう一度ご自身のお考えをまとめていただいて、次回の審議会にご参集いただいたらと思います。

それでは、事務局にお返しします。

審議会事務局 それでは、長時間にわたりまして慎重なご審議いただきありがとうございます。

次回の審議会でございますけども、11月末から12月中旬にかけて開催したいと考えております。後日、日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。